

森林火災が社会にもたらす正と負の効果について

2 2 1 4 0 0 0 3 佐倉仙汰郎

山火事は本来、森林の生態系をリセットするうえでたいせつな役割を担っていた。山火事が起こることで、病気の木や、樹皮の薄い若木が焼かれ、強い木々のみが残りが間引きされていった。しかし、近年の気候変動により、森林火災が持つ意味合いが変わってきた。森林火災は、点在するものではなく、広大な範囲を焼き尽くすものとなった。今回は、この森林火災が社会にもたらす、正と負の影響について記す。

2 0 1 9 年にオーストラリアで歴史的な森林火災があった。そこであった、ポジティブな影響として、干ばつが解消された。オーストラリアで森林火災が起こる前の1 8 か月間、ニューサウスウェールズでは雨があまり降っていなかった。しかし、そこで森林火災が起こったことにより、雨が降った。

また、森林火災により、土壌がリセットされ、栄養にとんだ土壌が出来上がる。焼き尽くされたものが、肥料となり、新しい生態系をつくるために役立つ。また、これは、ある特定の種が以上増加することを防ぐ。先述したように森林火災はある意味、生態系のリセットボタンのようになっているので、新たな生態系を生成することができる、新しい生息地を作ることによって、以前よりも多様な種類の植物や静物画生息する可能性がある。

悪い影響としては、山火事がおこると様々なものに莫大な費用が掛かる。例えば2 0 0 3 年の二月にオーストラリアのキャンベラで起こった山火事を鎮火するのには、2 5 7 0 0 0 0 0 0 ドルかかった。もしも、焼かれた森林の経済的影響を考えるとより莫大な金額になるだろう。

ほかの例としては、生態系が破壊される。2 0 1 9 年末から、オーストラリアで起こった山火事では、日本の国土のおよそ半分ほどが焼失し、大量の生物たちが焼死した。オーストラリアでは8 3 2 種類の固有種が存在するが、そのうちの7 0 種については生息地のおよそ3 0 %が焼失した。この中でもカンガルー島の固有種である、カンガルーアイランドダナートは生息地の8 割を失った。また、無脊椎動物の調査に関しては、被害が大きすぎることから、調査が進んでいないようだ。インドネシア東カリマンタン州で1 9 8 2 年から起こった火災では、多くの植物などが焼失したが、その後発芽し、定着した植物がみられなかった。

以上が、森林火災が社会にもたらす正と負の効果である。自然発生的な森林火災はあくまで自然の摂理の一環としての役割を果たすが、近年の異常気象による森林火災は圧倒的にデメリットのほうが大きく、特に生態系への影響また経済的な損

矢からは目をそむけられないことがわかった。